

単語完成課題の作成：I

筑波大学心理学系 太田 信夫

香川大学教育学部 小松 伸一

法政大学社会学部 原田 悦子

筑波大学心理学研究科 寺澤 孝文

A norm of guessing rate of the word-fragment completion task; I

Nobuo Ohta (Institute of Psychology, University of Tsukuba)

Shinichi Komatsu (Faculty of Education, Kagawa University)

Etsuko Harada (Faculty of Social Sciences, Hosei University)

Takafumi Terasawa (Doctoral Program in Psychology, University of Tsukuba)

Word-fragment completion tasks have been used as typical implicit memory tasks in the experimental paradigm of repetition priming. An example of the fragment is _YS_RY. Subjects have to complete the fragment as a meaningful word by inserting the missing letters. The answer in this case is MYSTERY.

We intended to make the Japanese version of word-fragment completion tasks. The materials consisted of 147 words which were common nouns of five or six Hiragana letters in length. In five-letter words, two letters were missing; in six-letter words, three letters were missing. Eighty-three college students participated in the survey, which aimed at getting the guessing rate of each word-fragment. Table 1 shows the results.

Key words: word-fragment completion task, implicit memory, priming

単語完成課題 (word-fragment completion task) とは、単語の一部を手がかりにして、単語を完成させるテスト項目より成る課題である。手がかりとなる単語の一部の性質により数種類の単語完成課題が考えられているが、ここでは、たとえば、あ□□どう (答えは、'あいきどう') のように、数文字を手がかりとして欠けた場所に適切な文字を入れ、単語を完成させる種類の課題をいう。

このような単語完成課題は、潜在記憶 (implicit memory) やプライミングの研究において使用されることが多い。したがって、潜在記憶テストとか間接記憶テスト (indirect memory test, 参照, Richardson-Klavehn & Bjork, 1988) と呼ばれている。

筆者らは、約10年ほど前にこの課題を作成し、こ

の課題を用いて研究発表を行った (原・太田, 1983; 原田・太田, 1983; 小松・太田, 1983; 太田・小松, 1983)。その後も単語完成課題を用いたプライミングの研究を続けているが、より精練した課題を作成するため、今回、前回よりも多くの被調査者を得て、検討を行った。すなわち前回のテスト項目を検討し、不適切なもの (たとえば、正答が2つ以上ある項目) を除き、適切な項目、147項目について調査を行った。

<調査期日> 1988年9月22日

<調査対象> 大学生83人

<調査内容> 5文字あるいは6文字の平仮名より成る普通名詞147語について、5文字名詞の場合は2文字、6文字名詞の場合は3文字を抜き、単語

完成のテスト項目を作成した。この際、各々の単語について抜く文字の位置は、幾通りもあるが、あまり易しくならないことと複数の正答が出ないように注意して、項目の作成を行った。

147のテスト項目は、約50項目ずつ3枚の用紙に印刷され、小冊子が作られた。抜かれた文字の部分は、四角で囲まれていた(たとえば、'あ□□どう')。

テスト項目の順序効果を多少とも除くため、3枚のテスト用紙の順序を変えた数種類の冊子が作られた。これらの小冊子を83名の大学生に配布し、□の中に適切な平仮名を入れて、普通名詞の単語を完成するよう教示した。制限時間は、20分であった。

<調査結果> Table 1 に示す。表中、パターンの数字は、ゼロが単語完成テスト項目の文字を抜く

Table 1 単語完成テスト項目の正答率(ゲシング率)

単語	パターン	正答率(%)	単語	パターン	正答率(%)
あいきどう	1 0 0 1 1	12.1	ぐびじんそう	1 0 1 0 0 1	8.4
あいことば	1 0 0 1 1	25.3	けいむしょ	1 0 0 1 1	36.1
あおにさい	1 0 1 0 1	4.8	けいりやく	1 0 1 1 0	27.7
あとしまつ	0 1 1 0 1	14.5	けんがみね	1 1 0 0 1	0.0
あほうどり	1 0 1 1 0	9.6	げんすいばく	1 0 0 0 1 1	8.4
あまなっとう	0 1 1 0 0 1	7.2	こういしょう	1 0 1 1 0 0	4.8
あまのじゃく	0 1 0 0 1 1	24.1	こういってん	1 0 1 0 0 1	0.0
あまやどり	1 0 1 0 1	34.9	こうこがく	1 0 1 0 1	4.8
いきづまり	1 0 1 1 0	22.9	こうつうじこ	1 0 0 1 1 0	3.6
いそうろう	1 0 1 0 1	9.6	こうばいすう	0 0 1 0 1 1	3.6
いちやづけ	1 0 1 0 1	1.2	こうやくすう	1 0 1 0 1 0	1.2
いとまごい	0 1 0 1 1	24.1	こうやどうふ	0 1 0 1 1 0	2.4
いろえんぴつ	1 0 0 1 1 0	8.4	こもんじょ	1 1 0 1 0	2.4
うすげしょう	0 1 0 0 1 1	0.0	しきんせき	1 0 1 0 1	3.6
うちょうてん	1 1 0 0 1 0	4.8	ししゅんき	1 1 0 1 0	7.2
うちわめめ	1 0 1 0 1	34.9	しょくりょう	1 0 1 1 0 0	1.2
うらにほん	0 1 0 1 1	2.4	じごうじとく	0 1 0 0 1 1	20.5
うるうどし	1 0 1 1 0	3.6	じつりよく	1 1 0 0 1	30.1
えこひいき	0 1 1 0 1	31.3	じゅうじか	1 0 1 0 1	15.7
おみおつけ	1 1 0 0 1	44.6	じゅみょう	1 0 1 0 1	7.2
おもいやり	1 0 1 1 0	3.6	じょうみやく	1 0 1 1 0 0	3.6
かきつばた	1 0 1 0 1	12.1	すいさいが	1 0 1 0 1	21.7
かくざどう	1 0 1 0 1	6.0	すいじょうき	1 0 1 0 1 0	2.4
かくゆうごう	1 0 1 0 0 1	0.0	すいちよく	0 1 1 0 1	3.6
かぜぐすり	1 0 1 0 1	1.2	すえひろがり	1 0 0 0 1 1	3.6
かつかざん	1 0 1 0 1	2.4	すれっからし	0 1 1 0 0 1	0.0
かまいたち	0 1 1 0 1	10.8	せいぶげき	1 1 0 1 0	3.6
かれさんすい	1 0 1 0 1 0	0.0	せいほうけい	0 1 1 0 0 1	0.0
かわざんよう	0 1 1 0 0 1	0.0	せおいなげ	1 0 1 1 0	2.4
かんこどり	0 1 1 1 0	21.7	せばんごう	1 0 1 1 0	2.4
がいせんもん	1 0 1 0 1 0	32.5	せんじゅつ	1 0 1 0 1	8.4
ききんぞく	1 1 0 0 1	4.8	せんばづる	0 1 1 0 1	0.0
きちんやど	0 1 1 0 1	7.2	そうあたり	0 1 1 0 1	8.4
きんでんず	1 0 1 1 0	2.4	そうしんぐ	1 0 0 1 1	12.1
きんぼうげ	1 1 0 0 1	36.1	そうじゅう	1 0 1 0 1	24.1
くさまくら	1 0 1 0 1	12.1	そうまとう	0 1 0 1 1	3.6
くちぐるま	1 0 0 1 1	18.1	そくりょう	1 1 0 0 1	26.5

単語	パターン	正答率(%)
そっこうじょ	0 1 1 0 1 0	0.0
たずねびと	0 1 1 0 1	36.1
たちくらみ	1 0 1 0 1	9.6
だいどころ	1 1 0 0 1	19.3
ちからしごと	1 0 0 1 1 0	12.1
ちゃくせき	1 0 1 0 1	4.8
でしゃばり	0 1 0 1 1	12.1
とうもろこし	1 1 0 1 0 0	18.1
とくみあい	1 1 1 0 0 0	27.7
どうみやく	1 0 0 1 1	21.7
どらむすこ	1 0 0 1 1	10.8
ないがしろ	0 1 1 0 1	3.6
ないやしゆ	1 0 1 0 1	18.1
なかがたい	1 0 1 0 1	3.6
ながすくじら	1 0 1 0 0 1	4.8
なぐりがき	1 1 0 0 1	30.1
なごりゆき	1 0 1 1 0	9.6
なにわおし	1 1 0 0 1	14.5
なまけもの	1 0 1 0 1	22.9
なんばせん	1 0 1 0 1	32.5
にゅうよく	0 1 0 1 1	28.9
ねこじゃらし	0 1 1 1 0 0	25.3
のうしんとう	1 0 1 1 0 0	45.8
のうはんき	1 0 1 0 1	3.6
はくぶつかん	1 0 1 0 0 1	1.2
はちゅうるい	1 0 1 0 0 1	24.1
はつもうで	0 1 1 0 1	38.6
はやうまれ	0 1 1 0 1	2.4
はりくよう	0 1 1 0 1	1.2
はるいちばん	1 1 0 0 1 0	2.4
ばんこくき	1 1 0 1 0	19.3
ひきがえる	1 0 1 0 1	32.5
ひこうじょう	0 1 0 0 1 0	2.4
ひざくりげ	1 0 0 1 1	10.8
ひょうげん	1 0 1 1 0	24.1
ひょうさつ	1 0 1 1 0	8.4
ひらいしん	1 0 1 1 0	18.1

単語	パターン	正答率(%)
ふうらいぼう	0 1 0 1 1 0	2.4
ふきでの	1 0 1 1 0	37.4
ふくじゅそう	1 0 1 0 0 1	1.2
ふくじんづけ	1 0 0 1 1 0	2.4
ふくわじゅつ	1 0 0 1 0 1	0.0
へんでんしょ	0 1 0 0 1 1	2.4
ほうていしき	1 0 0 1 1 0	0.0
ほうれんそう	1 0 0 1 1 0	14.5
ほちょうき	1 0 1 0 1	44.6
まてんろう	1 1 0 0 1	33.7
まめでっぽう	1 0 1 0 1 0	14.5
まんげきょう	1 0 0 1 1 0	18.1
まんねんひつ	1 1 0 0 1 0	3.6
みかんせい	1 0 0 1 1	9.6
みずさいばい	1 0 1 0 1 0	3.6
みずすまし	0 1 1 0 1	33.7
みずばしょう	1 0 1 0 1 0	59.0
みのしろきん	1 1 0 1 0 0	45.8
むしめがね	1 0 0 1 1	59.0
むつごろう	1 0 1 0 1	14.5
むらはちぶ	1 0 0 1 1	26.5
めしつかい	1 0 1 1 0	25.3
もうどうけん	1 0 1 0 0 1	7.2
やおちょう	1 0 1 1 0	13.3
やじろべい	1 0 1 0 1	15.7
やつあたり	0 1 1 0 1	4.8
ようりよくそ	1 0 0 1 0 1	16.9
らくてんか	1 0 1 0 1	4.8
らしんばん	1 0 1 1 0	51.8
らっかせい	1 1 0 0 1	36.1
りっこうほ	0 1 0 1 1	9.6
りゅうさん	1 1 0 1 0	57.8
ろんびょう	1 0 1 1 0	41.0
わらばんし	1 0 1 0 1	12.1
わるだくみ	1 0 1 0 1	14.5
わんりよく	1 0 1 1 0	27.7

場所を示している。たとえば、'あおにさい 1 0 1 0 1'は、'あ□に□い'となる。また正答率とは、83名中の正答者の割合を示す。

プライミングに関する実験で、これらのテスト項目を使用する場合には、極端に易しい項目（たとえば、80%以上の項目）や難しい項目（たとえば、0%

の項目）は、プライミング効果の測定上、一般的には不適切であるといえる。しかし、このことは、実験目的に依存するので、絶対的な制約ではない。また最近の筆者らの研究（たとえば、太田、1990）は、ここでの調査結果に基づいて課題を作成している。

引用文献

- 原聰・太田信夫 1983 単語完成課題における Priming 効果(3)—処理水準による検討— 日本心理学会第47回大会発表論文集, 309.
- 原田悦子・太田信夫 1983 単語完成課題における Priming 効果(4)—直接, 間接 Priming 効果の比較— 日本心理学会第47回大会発表論文集, 310.
- 小松伸一・太田信夫 1983 単語完成課題における Priming 効果(1)—長期遅延条件での再認記憶との比較— 日本心理学会第47回大会発表論文集, 307.
- 太田信夫・小松伸一 1983 異なる刺激表記条件での Priming 効果の検討—単語完成課題の場合— 日本教育心理学会第25回総会発表論文集, 612-613.
- 太田信夫 1990 潜在記憶における符号化特定性 日本心理学会第54回大会発表論文集, 667.
- Richardson-Klavehn, A. & Bjork, R, 1988 Measures of memory, *Annual Review of Psychology*, **39**, 475-543.

— 1990.9.30受稿 —